

0-57

1268

216
629

NECESSITY OF RELIGION

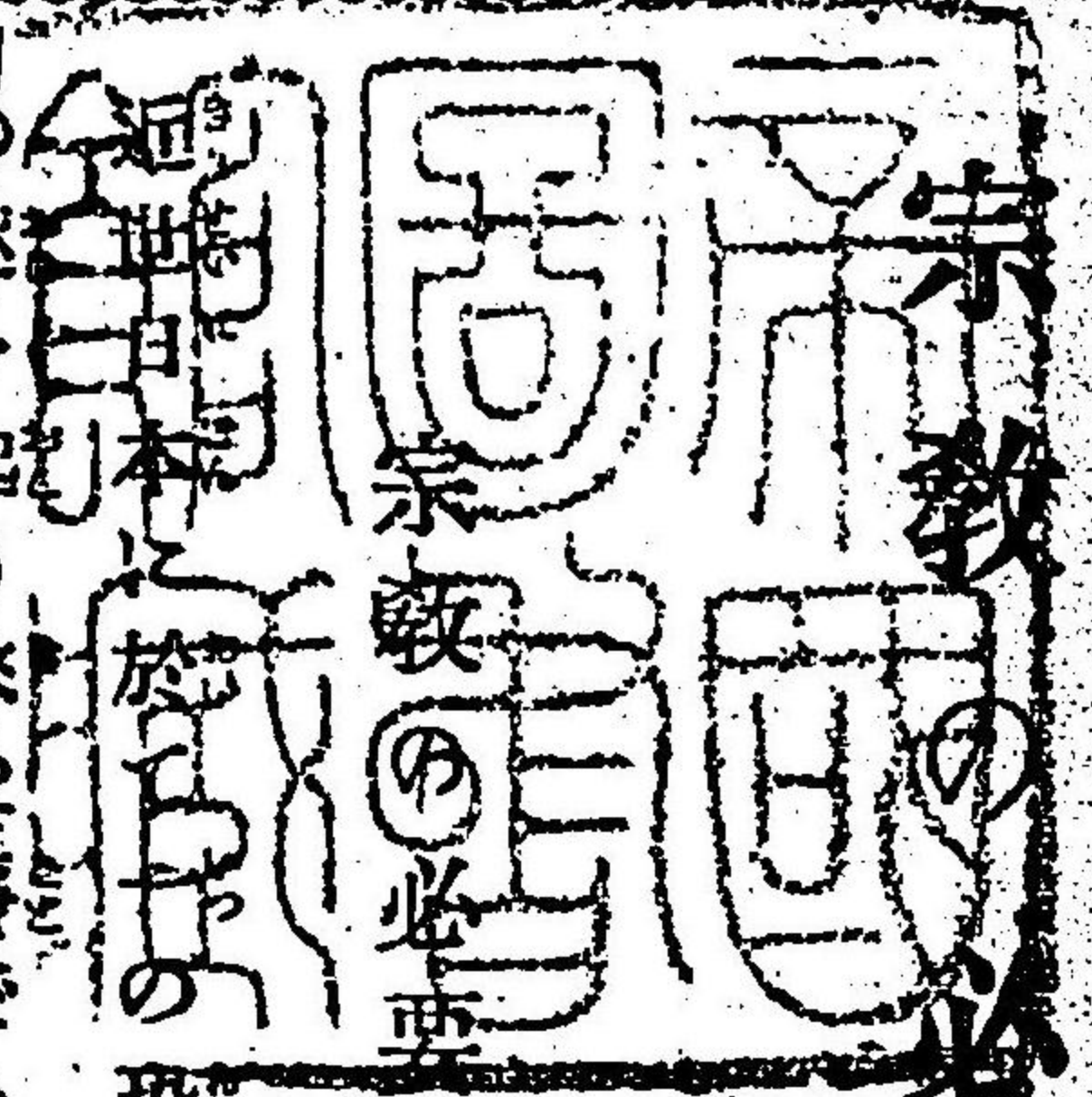
宗教の必要

哲學博士アルビン・ビリーリ述

東京

警醒社書店

宗 教 の 必 要



宗 教 の 必 要

を論ず

哲學博士

アル、ビ



リ述

近世日本に於ては、恐るべき現象が現はれました。其は即ち無宗教家の
の速々起り來た事であり、日本現今社會の有様を觀察すれば、通常
の人は宗教の必要を認識して居るでしやうが、中上流社會特に教育社會
の内に於ては、宗教の必要を認識しないのみならず、宗教を度外物視する
人々が夥多あります。予は曾て佐賀に寄留して居る官吏某と四方山の
談話の内に、基督教を信する事を勸告しました。然るに彼の官吏は斯く答
へました。宗教を信仰するには、基督教でも宜しかるべし。併し我輩は宗

宗教の必要を論ず

宗 教 の 必 要

宗教の必要を論ず

宗教の必要を認識めて居りません之は愚夫愚婦には必要であるかも知れぬが我輩共に於ては其必要は無と申しました如斯誤謬た見解を持つて居る人々は日本に随分他にも多くあるべしと思はる尙ほ例を擧ぐれば昨年博士井上圓了君は日本に於て高等學校大學校等に於て生徒の宗教に關する觀念を調査する爲め質問書を送りて宗教上の問題に付て答書を求めました然るに其質問書に答案を附したるもの、内百人中六十五人は宗教問題は興味なきものとししました依之考ふれば無神論者無宗教家不可思議論者が近頃日本には大分起つて來たものと察せられます之は實に恐るべき現象であると思ます

無宗教家が多く輩出すれば實に國家を害し社會を紊亂すのみならず萬物の靈長たる人間重大の價値を失墜しむるものなりと思ふ換言すれば宗教は絶對的に必要のものである國家に於ては無くて叶はぬ

宗教の必要を論ず

宗 教 の 必 要

ものである左れば宗教は何故斯く必要であるかと云へば先づ

第一 邦家を維持し國威を高める爲めに必要なりと思ふ國家に道德の必要ある事は三才の童子も尙ほ能く之を知る況して其道德の基礎とあるべき最も密接なる關係ある宗教は國家に取りて虧くべからざるものである換言すれば道德は宗教に根ざして以て初めて全ふし得らるゝものである

宗教は斯くも必要なるものである故に若し宗教を國家より排除するなれば其上に建てられたる道德は必ず倒るゝの日あると云ふも決して過言ではありません其例を揚ぐれば如何なる大厦高樓と雖ども若し其礎を取り除けば倏ち倒るゝは申すまでもない事です如此宗教を度外物とすれば道德も度外物としなければなりません此の二のもののは斯かる大切なる離すべからざる關係ある故に道德を必要とする

宗教の必要を論ず

宗教の必要を論ず

四

なれば宗教も均しく必要としなければならぬ。若し宗教に關係の無い道徳があるとするれば其の道徳は遂には必ず能力の無きものとなるに相違ございませぬ。故に宗教は道徳の指導者となり動機力となるものである。即ち道徳は宗教の能力に頼りて以て實行されるべきものである。譬て云へば若茲に汽鐵車を製造して如何にも立派に据へ付けても之に水と火とを入れて蒸氣を起さないあれば少しも働かない。其と同様に道徳も宗教の力に頼らなければ少しも働かせぬ。

其次に社會の安寧秩序を保つために宗教は必要である。元來宗教と云ふものは人の心を靜平にし柔順なるものとするに一の大きな元素である。神様が存在し給ふ事又は宇宙萬有の主宰者で居まし給ふ事を信仰するものは必ず國家の良民となる。併し神様を信仰しない人々の内には氣儘氣隨にして亂暴なるもの、不道徳なるもの、己の利をのみ

求むるもの人の害を謀るものが多く起る。假令ば學校の教師が教壇に在る内は生徒は行義正しく勉強するが若し教師が一度教壇を離るゝ時は生徒は直に傍目をなすとか喧嘩をするとか必ず教壇が紊亂れます。其と同様に神様を信仰するものは自然と神様の聖前に身を修め行を正しくする様になり而して神様を信仰しない者は直ぐ素行が亂れ不道徳のものとなる。故に若し宗教がないなれば社會の秩序を保つ事が逆も出來まい。今を去る大凡百年前の佛國を見よ。多くの無神論者起りて政權を握り盛に無神論を唱導し遂に會堂を閉鎖し宗教に關する凡の集會を嚴禁し以て宗教を絶滅せん事を謀りしが其結果將して國家は愈々紊亂れ社會は益々不測の悲惨に陥り遂に大叛反家が起つた。是に於て大無宗教家は宗教を蔑視するの危険なるを悟り直に會堂を開き再び政權を以て宗教の普及を圖畫りました。殷鑑遠からず宗教の

宗教の必要を論ず

五

必要を解せざる政治家等は深く自反自省以て國家萬代の安寧を求めなければなりません

第二 宗教は前にも述べし如く國家の爲めに必要であると同時に一個人に付て最も切要なるものである即ち人其ものが宗教を要求して居る或る學者は人間に定義を下し人間は宗教的の動物であるといつた實に左様である如何にとあれば人は生れながらにして宗教を要するものである人は自然と宗教を信じ宗教を望む動物である基督教の聖書の内にある詩篇の文に記載してある言葉に「ア、神よ鹿の溪水をしたひ喘ぐが如くわが靈魂もなんぢをしたひ喘ぐなり」と有升又た有名なるアウガスチン曰く「神よ我が魂は汝を仰ぎ望む汝に於て平安を得るに非れば平安を得ること能はざるなり」と如斯人間は創造主と交際する事を望むものである 加之吾人々類の心には様々なる宗教

宗教の必要

宗教の必要

的問題は心中に起り来るものである即ち人は何處より來り何の爲めに此世に生活し又た死して何處へ行くものであるか來世は有るものであるか無いものであるか此の如き問題は常に心の内に自然と起り来る問題である然る時に何を以て之等に答をなして其心に満足を與ふる事が出來やうか即ち斯かる時に宗教を以て答へ宗教の力に頼るに非れば到底安心立命の地位に起ちて此世を渡る事は出來ません之に依りて之を觀れば讀者は宗教の必要を了解せられたるならんと思ふ故に茲に二つの注意を願はなければなりません即ち其一は宗教は國家や社會の爲めのみの必要ではない凡の一人一個々々に必要である世の人の考には素より宗教は愚夫愚婦には必要であるが學識あり智慧あり地位あるものには必要がない即ち私如き一個人に取りては必要無い杯と云ふ人々が夥多あるが之は大に誤謬な考である

宗 教 の 必 要

前にも述べし如く人世は宗教を要するものであるなれば凡ての人類は之を求めて居るのである日本國中宗教を必要としない者は一人もない讀者も如何程學識あり品行ありと雖も宗教は儘かに必要であります其二は

如斯宗教は我儕人類に取りて必要であるが扱て宗教其ものが必要であるか或は一の法便として必要であるか云ふ事です政治家或は學者は時として之を治世の法便として採用するの考がある様です併し吾人は決して法便として用ゆる考は更に無い即ち宗教其ものが必要である我々基督信徒は元來此法便と云ふものには大反對である若し宗教其ものが只の法便のみであるなれば一日も早く之を撲滅して仕舞ふ方が得策であると思ふ

如斯考れば宗教と云ふものは國家や社會に取りて必要であると同

宗 教 の 必 要

時に吾人一人にも必要のものである故に國民にとりて是非共虧べからざるものは即ち宗教である依りて國民は必ず一の宗教を信仰して以て固く之を實行せねばならぬ而して日本に於ても一の宗教を要するものとすれば最上無二の宗教を採用しなければならぬ如何んとなれば日本の國民は決して二等や三等の宗教を以て満足できるものでない近世日本の方針を見れば世界中にある所の一番良善きもの勝れたるものを採用して居りましやう今二三の例を掲れば貴國の學校教育を見るに可成万國に行はれて居る所の最も良善にして世界の標準とすべきものを採用し陸軍に於ても矢張同様魯國や獨逸に劣らない陸軍でなければならぬ海軍も同じく軍艦を製造るにも世界一等の軍艦を造らねばならぬとか又た其他工業商業美術凡て國家に必要なるものは一として世界に於て第一等のものを採用すると云ふ

宗 教 の 必 要

宗教の必要を論ず
精神を以て將來の方針として居られましやう況んや國家繁榮の基礎
ともあるべき宗教のみ此の精神に戻る筈はありますまい故に最も高
尚にして且つ勝れたる極善無上の宗教を採りて以て我宗教としなけ
れば赤りません

如斯論じ去り論じ來る時に於ては世界中在らゆる宗教の内に第一
等に位する宗教は何れの宗教なるやとは自然其心裏に浮び來る問題
である之は至極緊要の重大問題であつて日本人々は能く之を研究
し以て一番善き宗教を撰び之を信仰する事が一大急務であると思ふ
素より大宗教と云ふべきものは世の中に三つある即ち基督教と佛教
と回々教である併し回々教は日本に關係なきのみならず此教は現今
衰微して居る故に論ずるの必要がない左すれば佛教或は基督教であ
る成程儒教と云ふ教もありませんが之は宗教の要素に虧けたる所があ

宗 教 の 必 要

る經濟學や政治學若くは道德學を教ゆるものではあるけれども純粹
なる宗教とは申されぬ故に如此學問の系統を以て宗教心を満足せ
しむる事は到底能はざる所である依之先づ大宗教と云へば佛教或は
基督教である博士井上哲次郎君の如き人の説に依れば佛教は腐敗し
て頼むに足らず又た基督教は國家に適はないから之を採用する事が
出来ぬ故に止むを得ず日本の爲めに適當ある一の新しい宗教を組
織しなければならぬと併しながら之は到底能はざる事を爲さんと
欲するものにして殆んど空中の樓閣に過ぎない宗教は如何に先生等
が畢生の腦力を費して之を作り出さんとするも決して出来得るもの
でない如斯事を主張する人は世人の嘲笑を招くのみで終るのである
左れば日本の國民が比較し研究し以て其貴賤優劣を定むべき教は先
づ基督教と佛教であります

宗教の必要を論ず

抑も是より可成簡單に此二を比較べて見たいと思ふ勿論我輩の説によれば基督教は佛教に勝りたる最も能く心靈に適したる高尚なる教である何れの方面より觀察するも基督教は佛教より遙か勝りて居りますが殊に三の点に付て基督教は佛教に勝りたる特点があります

第一 此の二つ教の起原である所謂佛教は高尚なる教としましても釋迦様が作りし以來漸々と開發した教で即ち人造教である併し之に反して基督教は神造教である即ち天啓教であります此の教は決して耶穌キリストが作りし教に非ずしてイエス、キリストに依りて顯はされたる神の默示である神は古昔豫言者を此の世に送り其口を透して御自分の聖意を人間に知らしめ然る後遂に其獨子イエス、キリストを遣はし給ふて初めて完全に其教を萬民に顯現はし給ひました故に此の教は人造教に非ずして神の默示即ち神造教である予は曾て或

宗教の必要を論ず

人より斯様な話を聞た事があります宗教の形即ち外面は幾分相異なりたる所はあるも其根本を探究すれば凡の宗教の主意は同じものであると併し之は大なる謬見である基督教は天啓教であるからして其根本に至りては他の教とは全然相違して居る即ち此宗教は大宗教の内の一の大宗教に非ずして基督教は唯一の完全無缺圓滿無量の活ける眞の神の教であります

第二 神に關する教に付ても基督教は他の教に勝るものであると思ふ如何んなれば佛教の如き教に依りて見れば神の存在さへ認識ひること能はざるのみならず勿論神の聖徳を知る事が出来ない古代の佛教は幾分神の事を教へたものと見へますが現今の佛教は佛は神の上に位する様にあつて居る所謂佛の事は能く言ふですが神の事に付ては余り言ふて無い即ち此宗教の最も大切なる問題に付て佛教は

宗教の必要を論ず

甚だ曖昧して居る然らば基督教は如何にと言ふに此點に付ては最も明々白々に教てある即ち神の存在并に其性質等殆んど親が兒童に指して示すが如く教てあります全体宗教に於ては神に教られ神を識り神に歸順すると云ふ事が其の基礎である然るに佛教は此の大切なる問題に付ては甚だ曖昧して居る故に佛教は頼むに足らざる教なりと思ふ

宗教の必要を論ず

第三 基督教に於て尙は一の長所は救の一點である吾人々類は罪の街衢に流蕩ふて居るものである故に是非共救済の方法が必要である依りて我儕の信する所の宗教は必ず此の方法に付て十分なる道が無ければならない然るに佛教には此點に付て完全なる救拯の道がありません尤も真宗には幾分説いてある様ですが之は甚だ不完全のものである故に此の大切なる問題に付て佛教は大に缺點があると云は

ねばならぬ併し基督教を研究して見れば此のキリスト教の中にこそ完全なる救の道が備りて居る事を知ることが出来る取も直さずイエス、キリストは此の救の道を設けん爲めに能々此の世に降臨り給ふたのである聖書に「それ人の子は喪ひしものを尋て救はん爲めに來れり」と記載してあります此イエス、キリストは我等に代りて彼の十字架の上で死し其御死を以て我儕の罪を贖ひ給ひました即ち私共の受くべき刑罰を己れ一身に引き受け我儕の罪の負債を償ひ給ひました斯るが故に我儕人類は此のイエス、キリストを信仰する其信仰に頼りて罪より救はれ義しきものとせられ加之直に聖靈を送り以て我儕を導き我らを慰め我らを助け我儕に愛と能力を興へて此の世を安全に渡らせ給ふ此の一点に付ても正しく基督教は佛教より遙に勝りて居るものと云はねばなりません

宗教の必要を論ず

此の外基督教の勝れたる点は夥多ありと雖も茲に一々記載する暇がありません讀者よ虚心平氣以て眞面目に比較的佛教と基督教とを研究せられよ必ず基督教の勝れたる事を明瞭に了解せらるゝに相違ございませぬ

如斯基督教は慥かに他の宗教に勝れたる教である故に宗教を要する人類は凡て此の教を信仰すべき筈であります勿論日本の人々も高尚にして眞正ある宗教を要するものとせば是非基督教を信仰せねばなりません

或る人の言には基督教は高尚にして信すべき教ではあるが如何にせん日本現今の社會は逆も基督教を容ない即ち基督教者を大に輕蔑する故我儕は基督教に入るなれば倏ち社會の排斥を招かれざるを得まいと左様です基督教信者は幾分か世人より見下げられるのであります

やうが若し此の事が人類として爲すべき當然の本務であると悟覺なしたる上は假令世の人が如何に嘲笑しようが輕蔑を加へようが排斥を爲そうが決して憚る所はありません若し之を恐れて我が爲すべき事をも爲さず探るべき事をも探る能はざるは余り臆病ではありますまいか予は願ふ讀者諸君の内にて眞實國威を高め家庭を潔め己れの救はれんことを願ふ人は必ず基督教の門に來りて之が眞理を研究め一日も早くキリストイエスを信仰せられん事を切に希望して止まざる所であります

宗 教 の 必 要 終

明治三十四年十月十五日印刷
明治三十四年十月十八日發行

定價二錢

佐賀縣佐賀市松原町

著述者 アル、ビ、ビ、リ

東京市芝區南佐久間町二丁目十七番地

發行者 福永榮三郎

橫濱市太田町五丁目八十七番地

印刷者 村岡平吉

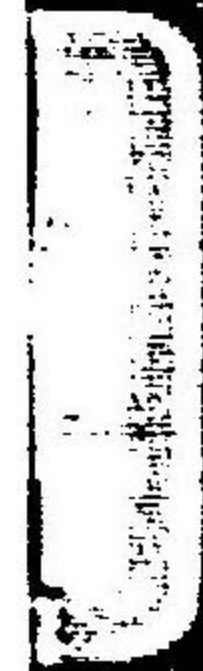
東京市京橋區采女町二十四番地

發行所 警醒社書店

橫濱市山下町八十一番地

印刷所 福音印刷合資會社

c-17



宗教の必要

アル・ビー・ペーリ

国立国会図書館

020717-000-2

特47-741

宗教の必要

アル・ビー・ペーリ/著

M34

ABI-0537

